

この学園で宗教を学んで

この学園でキリスト教と出会い、生きる上で自分の軸となる「愛」について学びました。この学園に入学する前は、特に宗教に関して特別な想いや知識がなく、日々の生活の中でキリスト教から学ぶこと、「愛」について考えることはありませんでした。ですが、中学生で初めて参加したオープンキャンパスで、本学園の生徒、先生方の優しさ、あたたかさに触れ、キリスト教の精神に興味が出ました。高校に入学し、この学園での生活がはじまりました。毎日のお祈り、聖歌、宗教の授業、ミサ。今まで経験したことがないことを初めてすると、緊張したりどこか疲れてしまったりしますが、この学園での宗教行事に参加した後はいつも満たされたあたたかい気持ちになりました。入試の前に暗記した「従順・勤勉・愛徳」を自分で理解し、心の中に染み込んできました。毎日、新しい学びの中で感じる事が沢山ありました。その中で一番自分の心に残っていることが「愛」についてです。キリスト教の精神である隣人愛。隣人を自分のように愛することはこの世の中で生きていく上でとても大切なことです。以前の私は、隣人とは自分の近くにいる友達、家族のことだと思っていました。ですが、留学を通し様々な国籍や宗教を持つ人々に出会い、この世界の全ての人々が隣人であり、自分のことのように大切にしたいと考えるようになりました。そして、世界で起こっている問題を自分がどう解決できるか、隣人のために何ができるかを考え始めました。自分の中で軸となる「愛」、それは世界に目を向け自分ができるところを見つけ行動にうつすこと、そして自分自身と同様に大切に思うというものです。これからの生活の中で、もっと沢山の国へ行き、人と出会い、視野を広げて自分の愛を深めていきたいです。また、私がこの学園で学んだことを活かし、社会に貢献できる人になりたいと考えています。

(佐々木若葉さんは、現在、上智大学文学部新聞学科で学んでいます。)